

「心に移りゆくよしなし事をそこはかたなく書き作れば…」

光陰矢の如し

校長の内田です。

校長室の机に向かい、「あら、セミの声が今年初めて聞こえた。」と思ったのが、忘れもしない8月1日。もしかしたら、もう少し前から鳴いていたのに気づかなかったのかもしれませんが。そして次に聞こえてきたのが、虫の声。「あら？いつの間にかセミからコオロギの鳴き声に変わっている…」そう思ったのはたぶん9月上旬。そのときすでにセミの鳴き声を聞いた日から1ヶ月以上たってるし（驚）。そんなこんなしているうちに事務室前には「ハロウィーン」の飾りつけが。まだハロウィーンには1ヶ月近くある。と思ったら、もうクリスマスの飾りつけ。

気が付けば4ヶ月近くもたっているのはびっくり！！この4ヶ月何をしていたんだろう。新型コロナウイルス感染防止だとか、登校時間や授業時間のこと、遅れていた学校説明会もあったし、なんとしてもやりたかった文化祭も…。この調子で言ったら、来週には年末が来てそうで怖い。「楽しい時間はあっという間に過ぎる」とはよく言うけど、楽しかったかどうかは微妙です（笑）。



SNSで… それぞれの事情^{じじょう}

こんな動画^{どうが}がありました。3分12秒^{さんぶんひゅうみじか}の短いものでした。動画^{どうが}というよりも場面場面の画像^{ばめんばめんがそう}。思わず見入^{みい}ってしまい、何回も繰り返し^{なんかいくりかえし}見^みてしまいました。内容^{ないよう}は次の通り^{つぎの通り}です。少し長文^{すこしちやうぶん}になりますが、最後まで^{さいご}読んでみてください。

急^{いそ}いで病院^{びやういん}に到着^{とうちやく}した医師^{いし}…

しかし、走る^{はし}医師^{いし}に一人^{ひとり}の男性^{だんせい}が怒鳴^{どなり}りかかってきたのです

医師^{いし}は難しい緊急手術^{きんきゅうしゆじゆつ}のために呼び出し^{よびだ}を受けてました。子どもの命^{いのち}がかかった手術^{しゆじゆつ}です。到着^{とうちやく}が遅^{おそ}れた医師^{いし}は急^{いそ}いで着替^{かきか}えを済^すませ、手術室^{しゆじゆつしつ}へ向^{むか}かう途中^{ちゆうちゆう}でした。

手術室^{しゆじゆつしつ}へ急^{いそ}ぐ医師^{いし}に激怒^{げきど}した子どもの父親^{ちちおや}が詰め寄^{つめよ}ります。怒^{いか}りで我^{われ}を忘^{わす}れた父親^{ちちおや}は医師^{いし}にこつ怒鳴^{どなり}りました。

「今まで何^{いまま}をしてい^{なに}ただ？息子^{むすこ}の命^{いのち}がかかっているのを知^しっているんだらう？遅^{おそ}れてやってきてなんて無責任^{むせきにん}な医者^{いしや}なんだ！」

すると医師^{いし}は意外^{いがい}な反^{はん}応^{おう}を見^みせました。医師^{いし}はしずかにこつました。

「申し訳^{わけ}ありません。病院^{びやういん}にいなかつたのです。できる限り急^{いそ}いで駆^かけ付けました。どうか落^おち着^ちいて私^{わたし}にオペ^おをやらせてください。」

子どもの父親^{ちちおや}は怒^{いか}りで気^きが狂^{くる}わんばかり

「落^おち着^ちけたと！？あ^{おれ}んたが俺^{ちちおや}の立^た場^ばだつたらどうするんだ？落^おち着^ちいて平^{へい}静^{じやう}でいられるわけがないだらう！？」

これ^{これ}に対して^{たいして}医師^{いし}は落^おち着^ちき払^{はら}って言^いいました。

「医師^{いし}はいつも奇^き跡^{せき}を起^おこせるわけではありませ^なせん。でもどんな時^{とき}でも冷^{れい}静^{じやう}でなければなりませ^なせん。心配^{しんぱい}しないでください。息子^{むすこ}さんのために最^{さい}善^{ぜん}を尽^つくします。」

しかし、父親^{ちちおや}は遅^{おそ}れてきた医師^{いし}の言^{こと}ばに納^な得^{とく}できません。

「自分^{じぶん}の子^こどもじゃ^なないからそ^いんなこと^{こと}が言^いえるんだ！！」

手術^{しゆじゆつ}は数^{すう}時^じ間^{かん}に及^{およ}びました。

手術室^{しゆじゆつしつ}を出^でた医師^{いし}は父親^{ちちおや}に歩^{あゆ}み寄^よります。

「手術^{しゆじゆつ}は成^{せい}功^{こう}です。息子^{むすこ}さんは危^き機^きを脱^{だつ}出^{しゆつ}しましたよ。」

そして時^{とけい}計^{けい}に目^めをやると、父親^{ちちおや}の答^{こた}えを待^{まち}たず^まに駆^かけ出^だしていきました。

「あと^{あと}は看^{かん}護^ご師^しに聞^きいてください。」

父親^{ちちおや}は憤^{ふん}慨^{がい}し、近^{ちか}くにいた看^{かん}護^ご師^しにこつ言^いいます。

「あの医^い者^{しや}はいつもこつなの^か？な^んて失^{しつ}礼^{れい}な奴^{やつ}だ。息子^{むすこ}の容^{よう}態^{たい}につい^てもう少^{すこ}し説^{せつ}明^{めい}してくれ^たつていいでし^{ょう}！」

すると看^{かん}護^ご師^しはな^んと目^めに涙^{なみだ}を浮^うかべ、こつ答^{こた}え^たのです。

「先生^{せんせい}は昨^{きのう}日^{にち}、自^じ分^{ぶん}の息子^{むすこ}さん^を事^じ故^こで亡^なく^しました。緊^{きん}急^{きゅう}手^{しゆ}術^{じゆつ}を受^うけたのは葬^{そう}儀^ぎの真^まっ最^{さい}中^{ちゆう}だつ

たんです。あなたの子さんを助け、これから埋葬される息子さんの元に戻るんですよ。」

これでこの動画は終わりです。この文章を読んで、どう思ったでしょうか？何を思ったでしょうか？
たぶん人それぞれ…。

私はこう思いました。

「人は誰もがそれぞれの事情を抱えて生きているということ。安易に人のことを判断してはいけない。」
それが正しいか、正しくないかはわかりません。どんな状態でも相手を思いやることは必要です。それがいい人間関係を作る事にもなるように思います。

初任の教員だったころ、生徒が悪いことをすると頭ごなしに怒ってた（叱ってたではありません）ような気がします。それが違うと気が付いたのは2校目。まず、叱るより先に、「どうしたの？」と聞くようになりました。何かをするときは、必ず理由がある。それがたとえ屁理屈であっても。ちゃんと聞いて、それが違うと思ってから叱ってもいい遅くはない。理由も考えもなくやった時にはそれがダメだ、誤りだと気づかせればいい。校長になった今も同じスタンスです。

きょう
今日はここまでです。